

## 2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

|   |                       |
|---|-----------------------|
| ふり<br>氏   | がな<br>飛奈<br>ひるみ<br>裕美 |
| (研究テーマ名)<br>「聖都エルサレムにおける排除と包摂のポリティクス<br>ーパレスチナ人のイスラエル地方政治への参加をめぐる議論を中心に」  |                       |
| (研究活動実績)<br><br>1. 日本国内で入手可能な文献の調査<br>(1) イスラエルの地方自治体であるエルサレム市の基礎的データの収集<br>ユダヤ人および非ユダヤ人の人口と有権者数、エルサレム市選挙投票率 (ユダヤ人、非ユダヤ人)、エルサレム市の部門別予算と東エルサレムへの予算配分、納税額 (ユダヤ人、非ユダヤ人)、エルサレム市職員数 (ユダヤ人、非ユダヤ人)、貧困率 (ユダヤ人他、アラブ人)、等のデータを収集し、分析を行った。<br>(2) パレスチナ人の選挙参加に関する言説の収集<br>1967 年以降、パレスチナ人はエルサレム市の選挙に「参加すべきである」「参加すべきでない」とキャンペーンを展開してきたパレスチナ側 (PLO、自治政府、ヨルダン政府、知識人等) とイスラエル側 (市長、市会議員、右派政党、左派政党) の言説を収集し、分析を行った。<br>2. パレスチナ/イスラエルでのフィールドワーク (2014 年 2 月 15 日～3 月 4 日)<br>エルサレムを中心として、17 日間のフィールドワークを行った。The Palestinian Academic Society for the Study of International Affairs、The British School of Archaeology in Jerusalem、UNOCHA in OPT、UNSCO、Centre for Jerusalem Studies (Al-Quds University) を訪問し、インタビューおよび文献調査を行った。<br>3. 論文のアウトライン作成<br>論文「聖都エルサレムにおける排除と包摂のポリティクスーパレスチナ人のイスラエル地方政治への参加をめぐる議論を中心に」のアウトラインを執筆した。2014 年 2 月 15 日～3 月 4 日のフィールドワークの成果を踏まえて原稿を完成させ、『中東学会年報』(2014 年 6 月 1 日締切) に投稿する予定である。 |                       |